

はじめに

コロナ禍における教育活動も今年度で3年が経過しようとしています。学校においては、日々の感染症対策を着実に実施しているものの、コロナ感染は常態化し、臨時休業や学級閉鎖を余儀なくされる状況も見られました。そのような中であって、教育活動が自校の子どもたちの成長に真に寄与するよう精選・重点化を図るとともに、授業においても一人一人の子どもたちにとって個別最適な学びを保障する一層効果的な指導が求められております。

二本松市教育委員会指導委員会においては、教職員の授業力向上を目的とし、昨年度から本市の目指す子ども像「夢中になって学ぶ子ども」の育成を目指して研究を推進してまいりました。

昨年度は、副主題を「子どもの学びを実現する単元構成からのコーディネート工夫」とし、単元構成と教師のコーディネートの工夫の2点を研究の視点として授業改善に取り組みました。その結果、単元や授業構成において、子どもの学びを予想してつなぐことで課題の吟味や個を生かす多様な言語活動につながったものの、教科の本質に迫る発問の吟味や個人差への対応、個のまとめ・適用・振り返り・定着を見取り、次時へつなげる指導には課題が見られました。

そこで、今年度は、授業において夢中になって学んでいる子どもの姿を5つの姿として具体的にしつつ、各教科等の見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫と学びの連続性につながる効果的な振り返りの工夫の2点に視点をあて、授業改善に取り組んできました。

本冊子は、研究授業における2つの視点による手立ての実際や成果と課題とともに、本単元をはじめとして今年度の授業全般において求めてきた「夢中になって学ぶ姿」の具体的な5つの姿についてアンケートを通して検証した結果を含めまとめたものです。授業の改善が真に子どもの「夢中になって学ぶ姿」につながっていたのか、今後も問い続けていくことで、一層の授業力向上につながっていくものと考えます。本冊子が本市の教職員の授業改善に活用され、より質の高い授業実践につながることを期待しています。

結びに、指導委員の皆様のご真摯な取組に敬意を表しますとともに、各学校の校長先生・園長先生、諸先生方の御理解と御協力に改めて感謝を申し上げます。

令和5年3月

二本松市教育委員会教育長 丹野 学